



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry : 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「ここからだの飢餓」に応える働きをしています。

国際協力カレンダー 「地球家族」2012 年版

世界 7 カ国の民間援助団体 (NGO) が共同で制作しているカレンダーです。開発途上国の人々と暮らして、生き生きと美しく表現されています。新たに「卓上型」も加わりました。※発送は 10 月 1 日からとなります。
【壁掛け型】 縦約 54cm × 横 36cm
フルカラー中綴 1 部 1,050 円 (送料別)
【卓上型】 縦約 12.5cm × 横 16cm
フルカラー 7 枚、525 円 (送料別)
ぜひお求めください！ 壁掛け型カレンダーは、名入れも承っております。お申し込み、お問い合わせは
㈱キングダムビジネス
TEL (072) 940-6814
FAX (072) 940-6824
ウェブサイトからお申し込みもできます。
<http://www.kbwin-win.org/>



卓上型カレンダーもいつか

世界里親会

子どもたちにクリスマスカードを！
子どもたちは里親さんからのクリスマスのお便りを楽しみにしています。カードをお送りの際は——
①里子 ID 番号を必ずお書きください。
②里親様のお名前にはフリガナをお願いします。
③カードは 11 月 15 日(木)までに世界里親会 (大阪) に届くようお送りください。期日を過ぎますとクリスマスまでに子どもたちに届かない場合があります。
④里子あてに現金や品物を送ることはお控えください。
⑤カードの受け取り確認はがきが必要なのは、その旨をお書き添え下さい。お問い合わせは、世界里親会 (大阪事務所) までご連絡ください。

ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

仙台市亘理町
復興支援の
新拠点誕生

宮城県南部の沿岸部に位置する港町の亘理町は、東日本大震災で 300 名を超える町民が亡くなり、港湾施設、住居、鉄道、学校など町全体にも甚大な被害が及びました。その亘理町で、当機構は被災者からの要望に応じて、物資支援、住宅の泥だしや大工による補修、漁師さんの網の

トカ際ラン亘
からシンタ理
航、テの
全イ前ボ
空連日ア
運日アで
賃空は、
の(米テ
サ米来国
ボ国日人
ーにボセ



清掃や漁具支援などの応援を続けています。
活動に際しては、地元住民から提供された住宅建物を拠点として使わせて頂いていましたが、この 10 月からは、建物を一部改装してボランティアセンターとキリスト教会として新たな活動をスタートしました。改修作業では、米国シカゴのスリーリバーズ教会から 17 名のボランティアも参加していただきました。今後、ボランティアリーダーの熊田康之さんのもと、地域の人々の復興を物心両面で応援していきます。

FAX・072-920-2155

ハンガーゼロ・サポーター 15880 突破。さらに運動をひろげていきますよー！

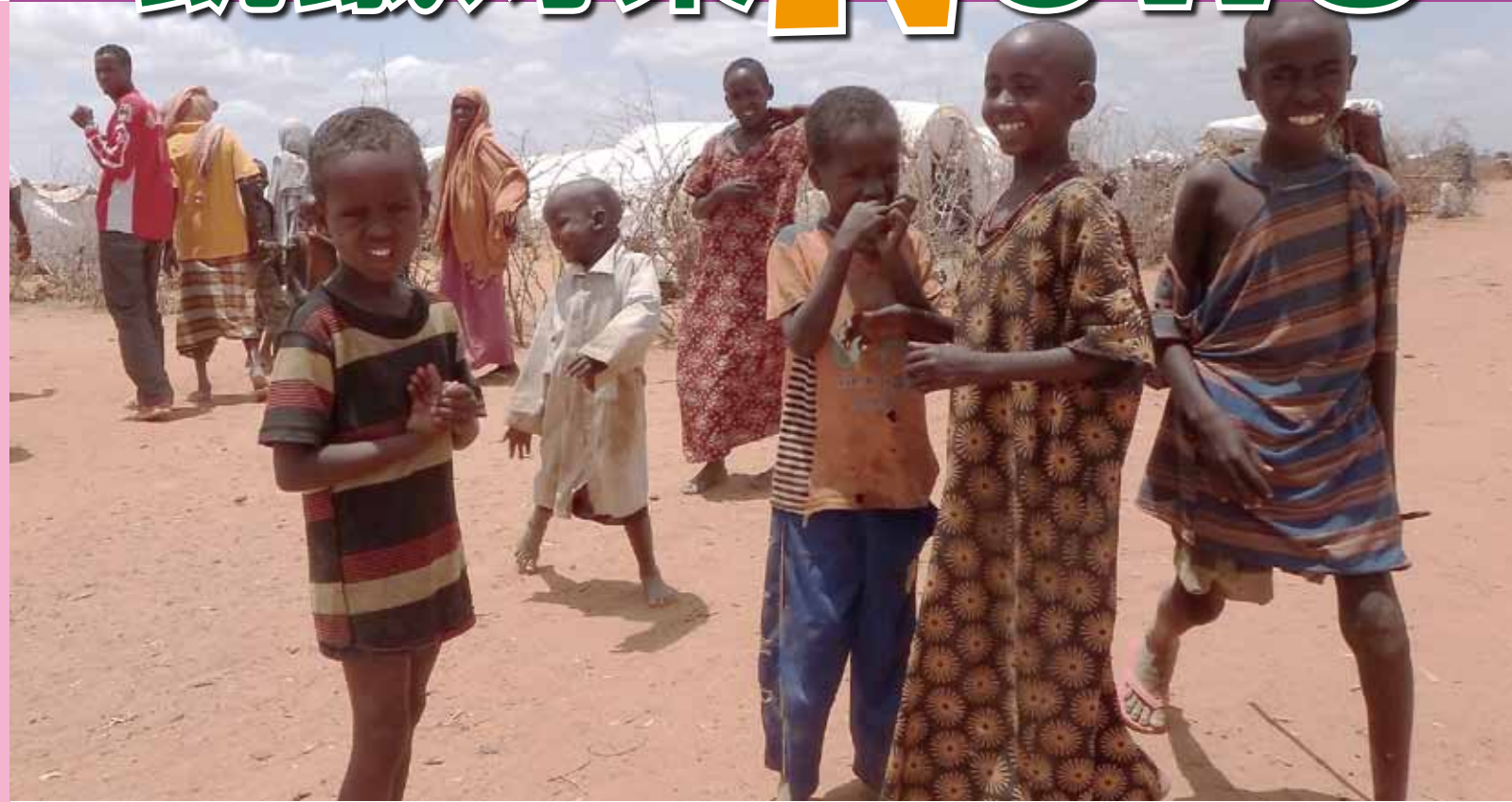


日本国際飢餓対策機構

2011 No.255

10

飢餓対策 News



東アフリカのソマリア難民が多数押し寄せているケニア国境にあるダダーブ難民キャンプの子どもたち (4-5 面にレポート記事)

「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」(ヨハネの手紙第一 3 章 17~18 節)

日本の経済的豊かさについて考えてみると、その生活レベルは世界の中で上位 10% に入るのではないかと思います。しかし最近の経済的厳しさの中で、多くの人々は豊かさを感じなくなっているかもしれません。それにもかかわらず世界の人々と比べてみると、私たちが当たり前と思っている快適な住まい、自由な移動手段、豊かな食生活が決して当たり前ではないことがわかります。

世界には 9 億 2,500 万人の飢餓で苦しむ人々がいると言われています。世界人口の 7 人に 1 人の割合で飢餓状態に置かれていることになります。中でも悲しいことは幼い子どもたちが栄養失調のために簡単な病気でも命を落とす現実があることです。

日本の経済的豊かさと世界の飢餓の現実を思うとき、上記の聖書箇所のことばが私の心に強く響いてきます。神様からたくさんの祝福をいただきながら、その祝福をただ自分のためにのみ用いて来なかったか。神様にたくさ

んあわれんでいただいていたのに、他の人に対してあわれみ深く接してきただろうか。特に世界の中で飢餓に苦しむ人々に対してあわれみ深くあったらどうかと振り返られます。イエス様の目は世界の中で飢餓に苦しむ人々、とりわけ幼い子どもたちに注がれています。イエス様は豊かに生活する私たち日本人に「自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」と命じ、世界の中で飢餓に苦しむ人々のために奉仕することを願っておられるのです。

私たちの教会では教会の働きの中で救済活動を推進することが掲げられています。その取り組みの中で、日本国際飢餓対策機構と協力していくことを進めています。今後の課題として

は、第一に、海外スタッフだった青山亜紀子さんを支援してきたように具体的に派遣スタッフを支援すること、第二に、「ハンガー・ゼロ・サポーター」を起こしていくこと、第三に、私たちの町で「世界食料デー」を地域教会と協力して行うことをあげることができます。これらの課題に取り組みながら、私たちの教会があわれみ深い、愛にあふれる群れとして成長するように心から願っています。

日本国際飢餓対策機構 評議員 笠川徹三
茨木聖書教会牧師

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さいます。ありがとうございます！

■発行 者 岩橋竜介

■発行 所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Web サイトアドレス <http://www.jifh.org/>
e メールアドレス general@jifh.org

■郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
※支援金は随時受け付けております。

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072) 920-2225 FAX (072) 920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室
TEL (03) 3518-0781 FAX (03) 3518-0782
愛 知 〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052) 731-8111 FAX (052) 731-8114
広 島 〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号
TEL (082) 831-1214 FAX (082) 877-3961
沖 縄 〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号
TEL (098) 859-4585 FAX (098) 859-4540
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E
TEL (022) 217-4611 FAX (022) 217-6651

2011世界食料デーに参加しよう

ハンガーゼロの世界を目指して

あなたの一食分を飢餓・貧困に苦しむ方々のためにご協力ください。今年お寄せいただいた募金は、以下の地域の人々のために用いさせていただきます。

■エチオピア■

ゆたかないのちの回復プログラム

貧困地域に生きる人々が、主体的に活動を計画・実施することを通して、人々自身が「命を得、またそれを豊かに持つ」事を目指す現地団体「ライフ・イン・アバンドンス」と協力して、地域に住む極貧の方々の収入向上と安定につながる活動を支援。トレーニングを修了した家族に融資を提供、縫製ビジネス、野菜スタンド、砂利製造、ミルクの卸売りやインジェラ作りなどの小規模ビジネスが始められるよう支援。



縫製ビジネスにより5人の子どもの養えるようになったムニットさん

■ルワンダ■

現地NGOリーチ（REACH：Reconciliation Evangelism And Christian Healing）は、カヨンザ郡に住む心と体に深く傷を負った人々の癒しと赦し、和解に向けた歩みを支援。「癒しと和解のセミナー」や虐殺の加害者が被害者のための家を作る「償いのプロジェクト」などの活動によって、人々がかつての悲劇から立ち直り、信頼を取り戻していくことを目指しています。

カヨンザ平和構築ユースセンター

日本国際飢餓対策機構が応援しているカヨンザ地区には、約400名の青年のグループがあり、虐殺の加害者と被害者を家族に持つ青年たちが、スポーツや演劇、音楽などのプロジェクトを通して一致と和解を深めていく姿は、痛ましい過去に苦しむ大人に大きなインパクトを与えています。

青空教室で学んでいるルンベック村の子どもたちの様子



■南スーダン■

ルンベック村学校修復プロジェクト

25年続いた内戦によって、働き手である成人男性の多くを失った結果、食料の確保や保健衛生の問題、リーダーの不在など様々な課題を抱えています。特に子どもたちの教育問題は深刻で、学校や教師の数が圧倒的に少ないという現状にあります。JIFHは「南スーダンライフ・イン・アバンドンス」と協力してルンベック村の学校修復を支援しています。

■フィリピン■

世界里親会

貧困の中で教育を受けることが困難なパリパラ地域とミンダナオ島の子どもたちが、将来に希望をもって学校に通って勉強できるように子どもと地域の人々を支援しています。

■日本■

東日本大震災の復興支援

大震災で被災された東日本の人々の「こころとからだ」の必要に応えるため、人々の復興のために地域の市民グループや教会との協力による応援を継続しています。現在も大工、ボランティアによる住宅補修や冬を迎える被災者のためにストーブ1千台の配布プログラムも進めています。

活動地の

ボリビア多民族国

駐在 小西小百合

思い出



●小西小百合●

1996年から3年間ドミニカ共和国、4年間ペルー共和国での働きを経て、現在ボリビア多民族国のコチャバンバ、チャヤで人づくりコーディネーターとして活動中

1997年5月に私はカリブ海の島・ドミニカ共和国の首都サントドミンゴから活動地となるハイチ共和国との国境の町、エリアス・ピニャへ引越し、FHドミニカのイルダさん宅で三食まかない付きの生活が始まりました。イルダさんはかつぶくのいい肝っ玉かあさんタイプ。ご主人と一人娘の3人家族でした。

さて米、豆、食用バナナはドミニカの主食で、この国で定番の家

庭料理に使われるアビチュエラは日本語でインゲン豆のこと。しかし人々は豆一般のことをアビチュエラと呼び、様々な種類があります。色も形もあずきに似た赤っぽいもの、金時豆にそっくりなもの、あずき大で黒い色のもの、円形で緑色をしたもの、楕円形でえんじ色や乳白色にえんじのまだら模様が入ったもの等々。

私も熱々の白ご飯の上にしっかりと煮込んだアビチュエラのスープをかけて食べるものや、豆汁に香草や調味料、つぶしたんにく、塩などで味付けした赤や緑、黒豆を使ったモロと呼ばれる炊き込みご飯をよく食べました。

たまらずギブアップ

イルダさんのこれらの豆料理を「すごくおいしい!」と、最初のうちは大喜びで食べていたのです



きて徐々に食事がのどを通らなくなり、その様子を見てイルダさんは「体調でも悪いの?それとも私の料理が口に合わないの?」と心配そうに聞くのです。ご一家は毎日これを食べています。とても「毎日同じ料理で飽きました」なんてことは言えず、苦肉の策で「実は私最近太ってきたので、ダイエットしようと思って」と言い、「そんなことする必要ないわよ!」というイルダさんを説き伏せ(?)、それからは盛る量を減



様々な種類があるアビチュエラ(豆) 写真② 白いご飯にかけたり食べ方も色々

らしてもらいました。

同じ屋根

の下で暮らしながら自炊や外食をするなんて概念はこの国では考えられません。ご一家に対して大変失礼なことになるからです。当時は外国人女性が一人暮らしできる環境ではなく私は1年半以上彼女の豆料理を食べ続けました。そのせいか、エリアス・ピニャの私の記憶の中では、イルダさんとアビチュエラはいつもペアで思い出されるのです。



東アフリカ緊急支援

ケニア・ダダーブ／ソマリア難民キャンプに入る

飢餓とテロに苦悩する人々



当機構は長く続く干ばつや国の政情不安により、44万人もの人々が隣国ケニア国境のダダーブ難民キャンプに押し寄せているソマリア難民への緊急支援を行うため、9月12日から22日まで清家弘久と秋元義彦（ハンガー・ゼロ特別大使）、映像カメラマンの3名をケニアに派遣しました。テロの危険から守られて難民キャンプに入ることができた清家より難民のおかれている状況ともに今後の応援計画を報告します。



「私は貧しい人を傷つけない」と語る青年（中央）

一体どのくらいのテントがあるのだろう。これだけ多くの人々が流れてきて隣国のソマリアは成り立っていくのだろうか。車の屋根に登って辺りを見渡して最初にそう思いました。

乾いた、果てしなく広がる平野に広大な難民キャンプ。ケニア北部のガリッサ州のダダーブ、そこには隣

国ソマリアから現在も多くの難民が押し寄せています。この6月に国連は国際世論に難民支援を強く訴えました。ケニア政府は土地を提供し、国連の難民高等弁務官（UNHCR）を始め、国連食糧計画（WFP）、ユニセフ、NGOのCAREなどが協力して難民を保護しています。以前からこの土地に留まっている古からの難民も含めて現在44万人を超えている人々が生活しています。

今回、国際飢餓対策ケニア（FHケニア）がWFPの要請を受け、北部マルサビット地域で非常に効果を発揮している調理用エコストーブ支援の話し合いのためにダダーブに入ると知り、私はそのチームに急遽同行させてもらいました。

3年も続く干ばつ

ソマリアを含め東アフリカの北部

ではここ3年、雨がほとんど降らず国際的な援助を必要としています。特にソマリアは内戦状態が続き、多くの人々が飢餓状態に陥っています。しかし政情不安のためソマリア国内での国連やNGOの活動は困難を極めています。首都モガデシオではこの1-2ヵ月でNGOの職員がすでに3名命を落としているといいます。

難民の方に国を後にした理由を聞くと、多くの人は家畜が死んだことをまずあげます。ソマリアの人々にとって家畜は財産であり、家族の命を守る宝です。その牛や山羊、羊などが干ばつで水を得ることができずに次々に死んで

いったそうです。自分たちもこのままでは死んでしまうと思い、長い道のりを子ども達を連れて歩いてきたのだといいます。首都のモガデシオからたどり着いた人は1ヵ月ひたすら歩き続け、やっとの思いでダダーブまで来たそうです。

今のソマリアには戻れない

人々が国を捨てるもう一つの理由はテロ組織「アルシャバブ」の存在です。2006年頃から頭角を現し、

はない」。彼の中に神様が与えてくださっている「人間の尊厳」を見た気がしました。

しかし、この状況を生み出しているのが飢餓、貧困であることは明白です。ソマリアで人々が安心して暮らせる国作りに着手できるように、まず人づくりがなされていくようにと強く思われました。なおアルシャバブがダダーブでも活動をしているとの情報が現地でも流れていました。

調理用エコストーブ配布を支援

FHケニアが難民キャンプで支援しようとしているエコストーブは、市販のストーブで汎用性があり、エネルギー効率が高いので薪の使用を極力低く抑えることができます。すでにナイロビ市内や北部マルサビットのプロジェクト地で配布され、薪の使用が3分の1まで抑えられことが証明されています。沢山の難民が押し寄せているダダーブでは、今のままでは調理用に使う薪がすぐに枯渇してしまうことが目に見えています。94年、ルワンダ難民が



配布する調理用エコストーブ

旧ザイールのコンゴになだれ込んだ時に、薪使用による環境悪化が地元住民との軋轢をもたらしました。WFPもこのことを心配し、FHに6,000個のストーブ供給と、環境リーダー育成の要請をしてきました。

このリーダー育成のなかで私たちが目指す人づくりが行われることを願って、日本国際飢餓対策機構もエコストーブプロジェクトに協力することを約束しました。

支援者の皆様、絶望的な状況におかれているソマリア難民のためにもぜひ、ハンガー・ゼロ・アフリカのサポーターになって、一刻も早くこの状況から抜け出させるようにご協力下さい。

秋元ハンガー・ゼロ特別大使も同行！



秋元義彦ハンガー・ゼロ特別大使は、映像カメラマンとともに当機構が支援しているケニア・マルサビットにある「シーブケアセンター」を訪れ、貧困地区の子どもたちを対象にしたプログラムの様子を確認することができました。

シーブケアセンターの子どもたちに持参した「パンの缶詰」を配る秋元大使。写真⑤マルサビット郊外の道中では、死亡した家畜の死体を目にしたという。



ケニアの遊牧民、彼らの生活状況も非常に厳しい





世界里親会 里親のよろこび



ボリビア
多民族国

町のお祝い行事に定着「世界里親会の日」

去る4月12日と13日、「世界里親会の日」のお祝いがチャラのラクヨセンターの各学校で開催されました。

このお祝いの行事は、行政教育機関、学校運営委員会や保護者の協力の下に行われ、チャラ地域では子どもたちに焦点を当てた行事としてすっかり定着しています。

この日の中心テーマは、聖書の

ルカの福音書から「リーダーとしてのイエス・キリストに学び、愛と正義、子どもたちに関心と思いやりを持つこと」でした。

里子、里子以外の子どもも合わせて約550人が参加しました。学校ごとに子どもたちが、楽しいゲームやダンス、詩の発表などを行いました。

子どもたちが彼らの人生におけ

る神のご計画に気づくことができるように、聖書の教えを基盤にした、一人ひとりの意欲を引き出すような活動を行ってこの日を祝いました。

いずれの学校も男子、女子すべての生徒が集まり、果物や食事、おやつなどを分かちあって楽しい食事会

を持ちました。そして子どもたちが今年の冬の寒さから守られるようにと、フリースの毛布が配られました。

ボリビアのチャラで約11年間に亘って行われてきた世界里親会の活動は、2011年末に地域の人々に委譲する予定です。

来年1月から新地域で支援

日本国際飢餓対策機構では、新たに支援を必要とする他の地域にスタッフが入り、子どものいる貧しい家庭の中でも特に支援の必要がある家庭から、子どもたちを里子として登録します。子どもたちが、成長に必要な食べ物を与えられ、学校で将来に希望を持って勉強できるような環境が整えられて、将来その地域のリーダーとして成長するために、みなさまの温かいご支援をお待ちしています。



子どもたちにビスケットを渡す小西ボリビア駐在スタッフ

●子どもたちは里親さんを待っています。お申し込みは大阪事務所 電話072-920-2226まで。

戸大震災から半年、復興への歩みの中にある被災者を励ますために、韓国から来日したビューティフルマインドチャリティーの演奏家（以下BMC）を迎えての「希望のコンサート」が、9月12日に石巻市、13日に仙台市で開催され、集まった被災者約400名に素晴らしいクラシック演奏や心なごむ韓国伝統音楽を楽しんでいただきました。＃

石巻市の仮設住宅コンサート

ビューティフルマインドチャリティー

復興支援・希望のコンサート開催

石巻市の大橋仮設住宅でのコンサートは、当初の予想を上回る180名が集まり、会場となった仮設住宅の集会場は開演前には人々であふれました。来会者の中には、周辺の仮設住宅や自宅、避難先からチラシやポスターを見て足を運んだ人々も多くおられました。主催したヨハン仙台基督教会は、震災直後から同地域で、「炊き出し」や「音楽コンサート」などで、被災者応援を続けてきました。コンサートではBMCメンバーの素晴らしい演奏に1曲終わるごとに割れんばかりの拍手が起きていました。

「家族の中に韓国人と結婚した人があるので、アリランを聞いた時は本当に感動しました。ここではいろいろな催しがありますけどこんな人に集まったのは初め

てです」（女性）「アンコールの故郷（ふるさと）では涙が流れました。あの曲を歌うと震災を思い出してしまうのですが、閉じこもった心のままでいるよりも泣くほうがいいですよ」（男性）などの感想をいただきました。

支援物資倉庫の利用者も来会

翌13日の仙台国際センター大ホールのコンサート（主催：当機構）には、188名（当日のボランティアを除く）が来会、市内の仮設住宅や当機構の物資倉庫（仙台市若林区）の利用者などが足を運んでくださいました。また、当機構とともに被災者支援活動をしている地元のキリスト教会や大学生、コンサート協賛企業からも多数のボランティアが駆けつけ、コンサート運営を手伝っていただき

東日本大震災活動レポート

⑤コンサートの翌日には倉庫でボランティアにも参加！



仙台コンサートの演奏風景

ました。

コンサートではBMCメンバーの質の高い演奏とともに、身体的な障がい克服して演奏家になったピアニストのエピソードや演奏も披露されて、大きな困難と向き合う被災者の心を励ましていました。「とっても良かったです、励まされました」「音楽聞いて癒やされました。仙台市内から来ました。家は大規模半壊なのですが今も住んでいます。（当機構の）物資倉庫は自転車で40分位かかるのですが、よく利用させてもらっています。ありがとうございました」（女性）。コンサート後、会場出口では、協賛各社から提供されたパンの缶詰やカップ麺、水などの生活物資を受け取った来会者から喜びの感想をいただくことができました。

森祐理さん 福島を応援

当機構の親善大使としても様々な応援をいただいている福音歌手の森祐理さんが、9月23～25日まで、震災と原発事故により厳しい状況の中にある人々を励ますために、福島県山形市や相馬市など3ヵ所でコンサートに出演されました。（主催：PBA太平洋放送協会）そこで、当機構もこの趣旨に賛同して、コンサートチラシやポスターの印刷や会場で配る生活支援物資の提供、ボランティア派遣で応援をしました。各会場では、森さんの温かい歌声やご自身の阪神淡路被災体験談を通じて、来会された方々の心を励まし、それに感動して涙を流される姿もありました。なおコンサートの模様は、テレビ番組「ライフライン」で10月22と23日に放映される予定です。詳しくは、ウェブサイト <http://pba-net.com/> で、放送予定を確認ください。



来会者を優しく気遣う森祐理さん⑥

石油ストーブ 1,000台配布



当機構は、これから秋冬を迎える被災者への生活支援として、「心も体も暖まってける」と題して石油ストーブ1,000台の配布を始めます。仮設住宅への配達や物資倉庫に集められた被災者に無料で提供しています。

●東日本緊急支援募金にご協力を 郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 記入欄に「東北地震」と明記